

ネタニヤフ首相が安全保障上、最も警戒していたのは、ハマスではなく、イランや、イランの同盟勢力で、彼はシリアにイラン革命防衛隊関連施設があると主張して、シリア領への空爆を繰り返した。

2023年7月、政府に対する最高裁判所のチェック機能を弱める司法改革法案がイスラエル国会で与党の多数で可決された。この可決を阻止しようとした激しい抗議活動が行われたものの、最高裁の権限を弱めようとするネタニヤフ首相らの意図は実現したかのように見えた。2023年のイスラエル政治の焦点は、ハマスの奇襲攻撃があった10月7日まではこの司法改革で、数十万人とも見られる大規模な反対デモや集会が各地で繰り広げられた。しかし、国を二分するような対立があっても、ネタニヤフ首相は反対派の主張に聞く耳をもたなかった。予備役の空軍パイロットなどの動きはイスラエルの安全保障体制の深刻な対立や分断を表すものだったが、自らの主張を押し通し、司法制度改革を断行しようとしていた。

ガザには差し迫った脅威が存在していたにもかかわらず、司法改革に反対する予備役のパイロットが離反し、空軍の一部が機能しなくなっても、政府がない状態よりはましとすらネタニヤフ首相は豪語していた。

ハマスは戦争に勝利している？

米国の「フォーリン・アフェアズ Foreign Affairs」誌は、「ハマスは勝利している：イスラエルの破綻した戦略はどうして敵を勝利させているか (Hamas Is Winning: Why Israel's Failing Strategy Makes Its Enemy Stronger)」という記事を2024年6月21日付で掲載した。同記事によれば、9カ月に及ぶ過酷な戦争を経てイスラエルにはハマスを打ち負かすための軍事的解決策は存在しないという現実を認識すべき時が来たという。イスラエルは4万人の戦闘部隊をガザ北部、南部に侵攻し、ガザの人口の80%を強制退去させ、また3万7000人余りを殺害し、7万トンの爆弾を落とすにもかかわらず、ハマスの主張はむしろパレスチナの人々の間で支持を集めるようになったという。7万トンという爆弾の重量は、第二次世界大戦中にロンドン、ドレスデン、ハンブルクに落とされた爆弾の総重量を上回る(2024年7月時点)。

イスラエルがハマスの活動を封じたいならば、交渉によってパレスチナ国家を認め、ガザの人々の生活状況を改善することのほうが重要だが、イスラエル政府にはそのような発想が見られない。ガザの人々が紛争や困難な生活を強いられ、職も食料もなければイスラエルへの反発を強めるばかりだ。

アラブガニスタンで日本の中村哲医師は用水路を築き、人々が食料を十分に得ることで、和平の実現を考えたが、ガザについてイスラエル政府に求められるのはそうした考えや行動だ。軍事力でハマスが壊滅することがないのは、米国がベトナム戦争でベトナム（南ベトナム解放戦線）の制圧を目指し、米軍とCIAが手を組んで北ベトナムと通じると考える「共産主義者」を南ベトナムから一掃する破壊工作（フェニックス作戦）に着手し、2万人以上が虐殺され、共産主義者が潜むとされた村が焼き払われてもおおベトナムの活動が消滅することはなかったのと同様だ。10月7日の攻撃は1968年にベトナムが米軍や米国関連の施設を一斉に攻撃したテト攻勢を彷彿^{ほうふつ}させるものだ。テト攻勢に衝撃を受けた米国社会ではベトナム反戦を求める声が高まっていった。

「CIAの作戦はまるで見当違いで果てしなく暴走していった。私はCIAの一員として祖国アメリカを誇りに思っていたが、それもベトナムに来るまでだった」

（CIA元工作員 ラルフ・マギーの発言）

イスラエル軍が、ネタニヤフ首相の極右政権と異なるとしてハマスとの停戦協議を支持するよ

うになった背景には、イスラエルに対する軍事的脅威が多方面から現れたことと関連する。現在のイスラエルの戦争の敵はハマスやヒズボラのように国家主体ではない。しかし、イスラエルが周辺のアラブ諸国に軍事的脅威を感じていた1960年代、70年代にまでタイムスリップしたかのように、イスラエルは周辺を敵によって囲まれ、イスラエルにとって深刻な事態となっている。

2024年6月22日、テルアビブではネタニヤフ首相の辞任を求める15万人規模のデモが行われたが、これは2023年10月7日のハマスの奇襲攻撃があつて以来、最大規模のデモとなった。ネタニヤフ首相への反発が強まったのは、人質交換交渉が成立するまでの間、ガザ空爆を停止することをネタニヤフ首相が拒否したことが大きい。人質の家族はネタニヤフ首相が政権の座にとどまる限りは、その解放の実現は不可能ではないかと悲観的になった。

米国のジョー・バイデン大統領は、2024年5月下旬「タイム」誌とのインタビューの中で、ネタニヤフ首相が権力の座にとどまりたいがために9カ月にもわたってガザの作戦を継続していると疑うのは正当なことだと語った。ネタニヤフが連立与党を維持できる限り、彼は2026年まで首相の座にとどまることができるが、イスラエル国家分裂の危機や外部からの脅威はますます深刻になりそうな気配が明確に感じとられるようになってきている。